

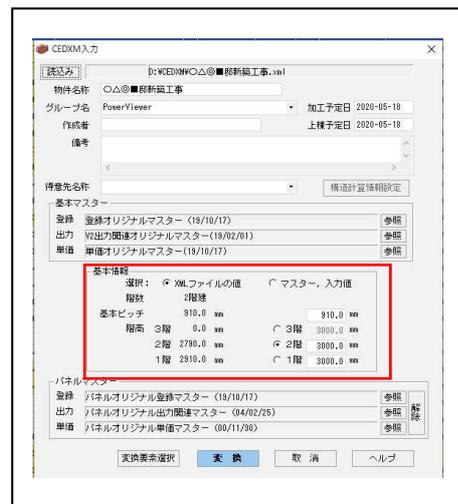
MP-CAD の意匠 CAD 連携の注意点

意匠 CAD データを MP-CAD に取り込む際にチェックすべき項目をまとめました。特に初めて連携する場合にはこれらの情報をチェックして作業をしていただくとスムーズに作業を進めることができます。

< 1. 階高情報の確認 >

CEDXM を取り込む際に基本情報の項目に階高の情報が表示されます。「XML ファイルの値」が CEDXM に設定されている情報となります。この値が実際の図面と異なる場合は「マスター、入力値」にラジオボタンを変更し、正しい値を設定して取り込んでください。

階高情報は取り込んだ後でも「基本情報」の画面で調整が可能です。

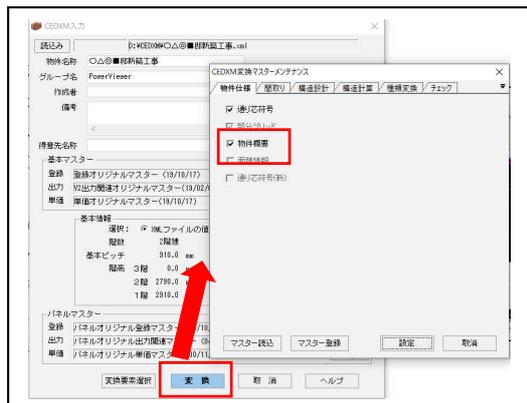


< 2. 通り芯情報の確認 >

MP-CAD では通り芯情報は全角 1 文字、あるいは半角 2 文字という制限がありますが、CEDXM を出力した CAD では右図のように「A1,A2,・・・A10,A11,A12」と設定されている場合があります、その場合は「A10」は半角 3 文字となり正しく表示することができなくなります。このような場合は通り芯符号の設定で全角 1 文字か半角 2 文字に変更してください。

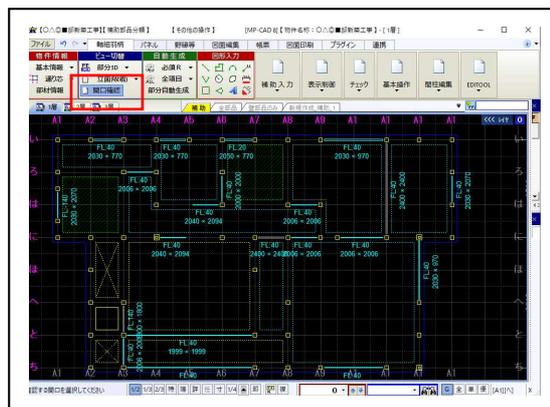


取り込む前に通り芯符号がこの制限を超えることがわかっている場合は、取り込む際の変換設定で通り芯符号のチェックを外し、取り込まないようにしてください。こうすると CEDXM の通り芯符号ではなく、MP-CAD のマスター設定値の符号で取り込まれます。



< 3. 床高や開口高さの確認 >

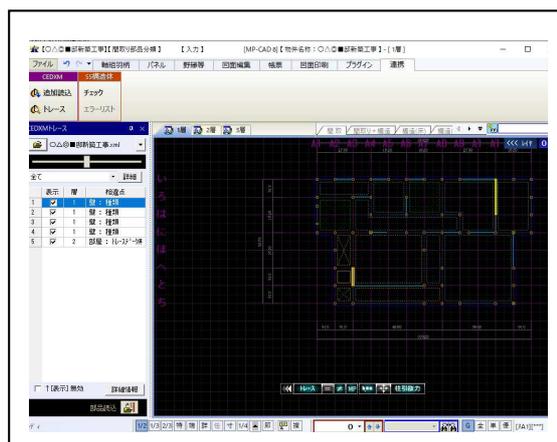
ビュー切替の「開口確認」で床高と開口高さが一覧で確認することができます。それぞれの情報が正しく入力されているか確認してください。



< 4. 取り込まれなかった情報の確認 >

CEDXM データと実際に取り込まれたデータを重ね合わせて取り込まれなかった情報をトレースし、取り込まれなかった情報を確認することができます。

この画面でその情報の必要性を吟味し、必要であればその情報を入力してください。



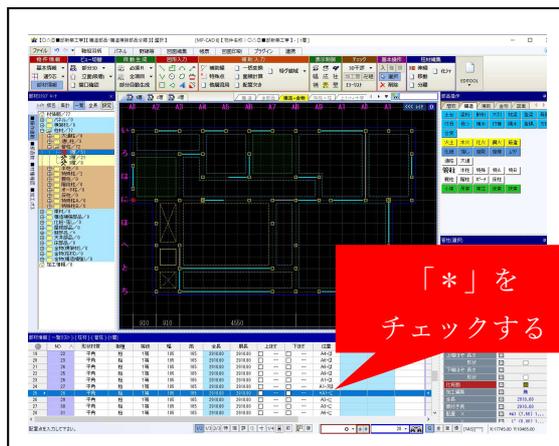
< 5. 柱の材寸、座標の確認 >

CEDXM で取り込んだ情報の座標が正しく入力されていない場合があります。特に柱材は偏芯した場合に部品をグリッドに入力せず、偏芯した位置で入力されてしまうケースがあります。

柱材の場合は部品を1つずつ確認するのは手間がかかりますので部材情報の通り芯情報で「*」がついている柱を探すと比較的短時間でチェックが可能です。

このような柱は MP-CAD で横架材を入力すると仕口が生成されずエラーリストに出力されます。エラーリストのチェックも忘れずに実施してください。

材寸や樹種等級の情報も一通り確認してください。



< 6. 筋違情報の向きの確認 >

筋違の向きが適切に入力されていない場合があります。この場合は筋違の向きを調整してください。